

# 白山の火山活動解説資料（平成 29 年 4 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

20 日に一時的な火山性地震の増加がみられましたが、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

## 活動概況

### ・噴気など表面現象の状況（図 2）

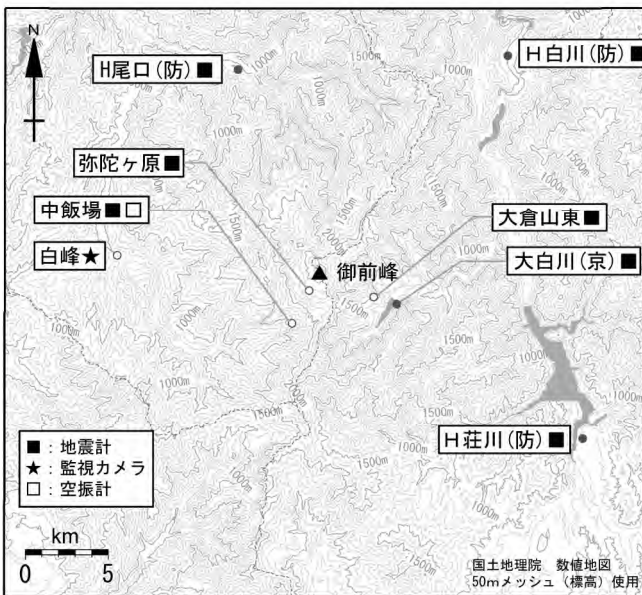
白峰監視カメラ（白山山頂の西約 12km）による観測では、山頂部に噴気は認められません。

### ・地震や微動の発生状況（図 3～4）

20 日 1 時 30 分頃から 3 時頃にかけて、山頂付近の深さ約 3～4 km を震源とする火山性地震が一時的に増加しました。20 日の日地震回数は 48 回で、最大のマグニチュード<sup>1)</sup>は 2.2 でした。21 日以降は 20 日以前の状態に戻っています。低周波地震や火山性微動は観測されていません。

白山では、このような一時的な地震増加が時折発生しています。最近では 2017 年 3 月 17 日に一時的に地震が増加し、最大のマグニチュードは 0.6 で、日地震回数は 42 回でした。

1) マグニチュード (M) は地震の規模を表します。資料中のマグニチュードは暫定値で、後日変更することがあります。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(防)：防災科学技術研究所、(京)：京都大学防災研究所

図 1 白山 観測点配置図



図 2 白山 山頂部の状況  
(4 月 3 日 白峰監視カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 29 年 5 月分）は平成 29 年 6 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用しています (承認番号：平 26 情使、第 578 号)。

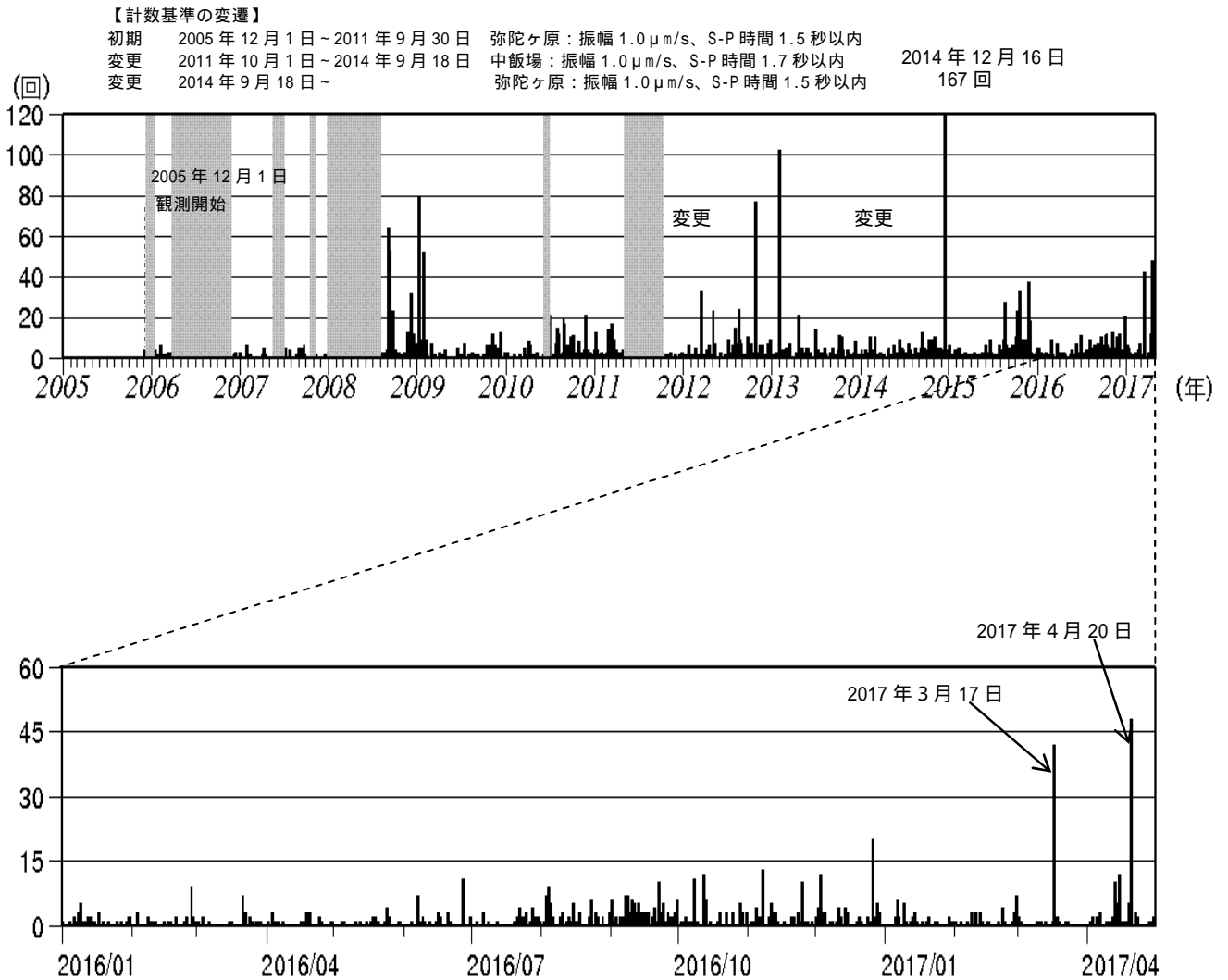


図3 白山 日別地震回数  
 上段：観測開始以降(2005年12月1日~2017年4月30日)  
 下段：昨年以降(2016年1月1日~2017年4月30日)  
 ・図の灰色部分は機器障害による欠測期間

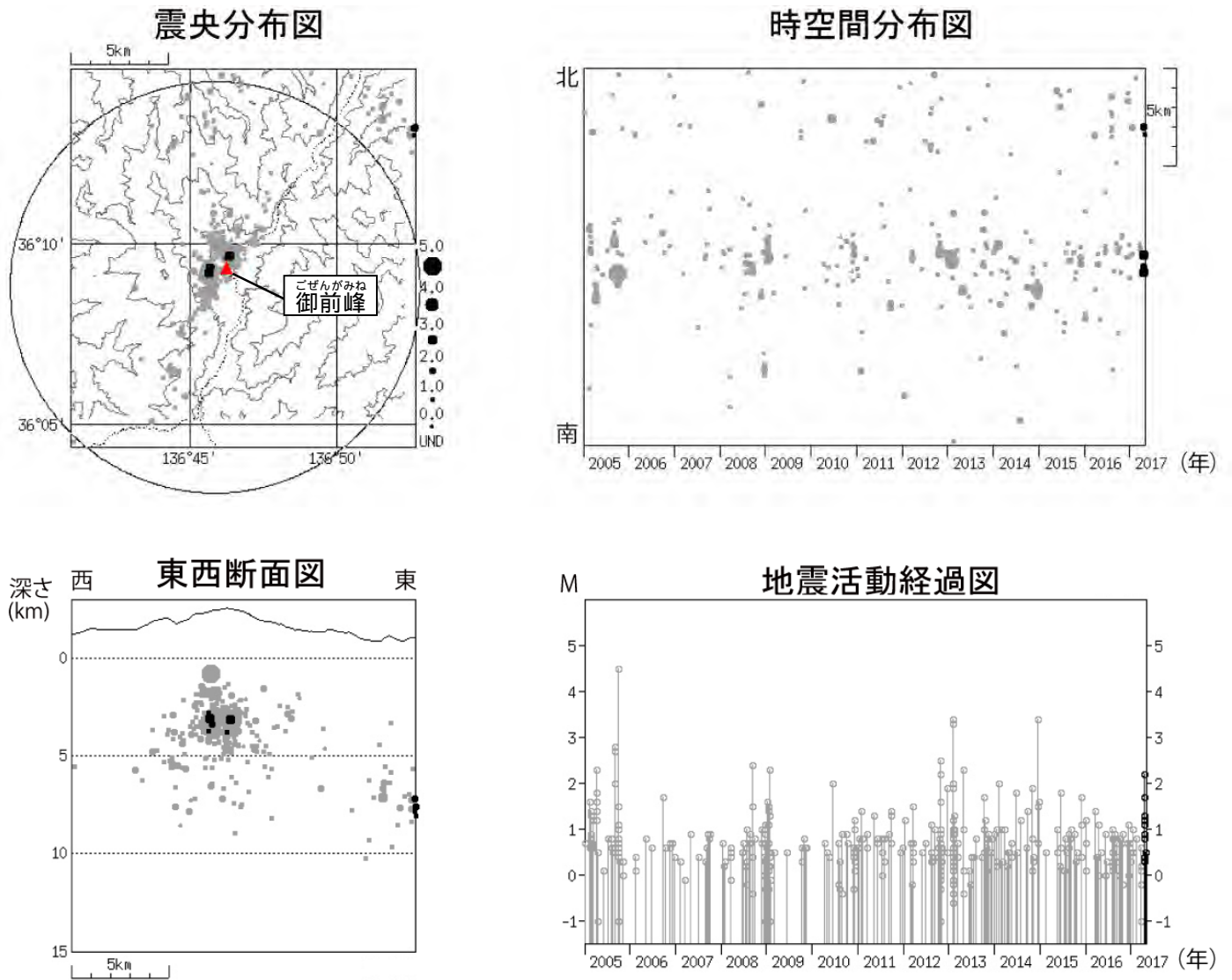


図4 白山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2005年1月1日~2017年4月30日)  
 : 2005年1月1日~2017年3月31日 : 2017年4月1日~4月30日

- ・震央分布図中の円は図3の計数対象地震(弥陀ヶ原でS - P時間1.5秒以内)のおよその範囲を示しています。
- ・広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
- ・M(マグニチュード)は地震の規模を表します。
- ・図中の震源要素の一部は暫定値が含まれており、後日変更することがあります。